

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

2000.3.20 No. 5104

## 組織破壊攻撃の道具 にされた「シニア協定」

### 東労組・会社一体で仕組んだ不当労働行為

# シニア協定の 実態 ④

「シニア協定」をめぐる問題点は、提案内容をめぐるばかりではない。その全体が、会社と東労組の合作で、組織破壊攻撃として仕組まれているのだ。

JR東日本は3月1日、各組合に修正提案を行い、東労組はその場で妥結したが、実はこの提案は、東労組とだけは事前に協議し、合意していたものだったのだ。

しかも合わせて、「今後の雇用の基本に関する覚書」まで事前に用意して同じ日に締結し、それに「シニア制度は国鉄改革を担った真面目なシニア社員の定年退職後の実質的な『雇用』の確保という目的をもつもの」という主旨の文言を盛り込んでいる。

### 組織破壊攻撃として仕組まれた「シニア協定」

東労組の各分会には、翌日提案されるはずの修正提案や「覚書」を妥結した旨のビラ（「緑の風」号外）が前日のうちに送られていたのだ。しかも、修正提案当日の午後には全国鉄規模で社宅、職場へのビラ入れが一齐に行われ、各級機関のビラまでまかされている。

その内容は、「60歳以上の雇用確保実現」「第二の雇用安定協約締結」「東労組組合員だけが再雇用される」「他労組組合員の雇用保障はJR東労組加入しかないことがはっきりした」「国鉄改革完遂、JR連合・国労解体をせよ」というキャンペーンだ。

しかも、3月4日にはあらかじめ東労組主催で、会社と組合のアベック講演を内容とした「管理部会大集会」を設定し、東労組の最大の弱点である管理者層へのタガひめを行うことも事前にセットされていた。業務の全面的な外注化とワンセットにな

った協定内容も含め、どう考えても相当の期間をかけて準備されたものであることは間違いない。

御用組合とだけ協議を重ね、事前に合意したものを、あたかも同じ日に一齐に提案したかのような形式だけ作って、他の組合に一方的に強要するようなやり方は明らかに不当労働行為だ。それは、60歳から年金支給年令までの雇用という切実な課題を人質にとり、会社と東労組が共謀して組織破壊攻撃を仕組んだとしか考えられないが、その意味ではきわめて悪質な違法行為である。

### 外注化とは直接リンクしないとは回答していた

とくに、協定文のなかで、「シニア制度」と業務の全面的な外注化がワンセットにされていることも、協定を締結しない組合には、定年後の再雇用の機会も与えないという取り扱いをすることなどは、東労組以外の組合にとつては「寝耳に水」のことだ。3月1日の修正提案の時点ですら、会社は全く明らかにしなかった。意図的に隠したとしか考えられない。

昨年12月の提案にも、3月の修正提案にも、「業務委託を深度化する」ということは一行も書かれておらず、交渉の過程でもこの点について会社側からの積極的な主張は全くなかった。逆に、組合側から、シニア制度提案提案と、一九九七年三月の鉄道事業等の委託拡大に関する提案について、どのような関係で運用されるのか明らかにするよう申し入れたことに対して、会社は「関係はあるが直接リンクするものではない」と回答していたのだ。ところが「リンクしない」どころか、フタをあけて見れば、協定にワンセットで盛り込ま

れていたのである。まさに不誠実団交だ。これは、東労組以外の組合にはウソをつきながら、東労組とはこのような議論を行っていたことを示している。これも明白な不当労働行為に他ならない。

さらに言えば、退職後の再雇用あつ旋などは、退職条件の一部を構成するものだが、退職条件は、法律的にも就業規則で定めるべき次項とされている。それをわざわざ、「就業規則には盛り込まない。協定化が前提だから妥結しない組合は対象にならない」とするこ

### 一年以上前から準備されていた裏切り!

しかも、今回協定に盛り込まれた「業務の外注化推進」という部分は、先にも述べたとおり、昨年一月にJR東日本と東労組が締結していた「覚書」とそっくり同じ内容のもので、つまり、定年延長や継続雇用を否定し、大合理化を労使一体で推進し、しかもそれを、差別・選別と組織破壊攻撃の道具にするという卑劣なやり方は、会社と東労組によって、一年以上前から準備されていたということだ。一年以上も前に、まず真つ先に業務の全面的な外注化を容認したということとは、その時点で「定年延長などしなくてもいい」と認めたとに等しいことだ。「業務の外注化ではなく、定年の延長を」という、労働組合としての当然の要求をなぜ真つ先に放棄したのか。東労組は、なぜこのことについて、一言も語らないのか。なぜ黙っているのか。われわれはこの裏切りを断じて許すことはできない。定年延長を実現するために全力で闘いを展開しよう。「シニア制度」を利用した組織破壊攻撃を怒りの声ではね返そう。「定年延長実現、JR貨物の超低額回答打破」を掲げ、二〇〇〇年春闘をストライキで闘いぬこう。JR総連を解体し、組織の強化・拡大を実現しよう。